



さっぽろ市
札幌市

耳の不自由な人たちが手や指、顔の表情などで言葉を表現する手話。最近ではドラマやアニメで取り上げられるなど、目にする機会が増えています。札幌のこども記者が札幌聴覚障害者協会（札幌市）を訪ね、手話のことや手話を使う人たちが日常生活で感じていることについて聞きました。

（高橋毅）

手話 もっと通じる社会に

こども記者見ぶん録



新しい言葉は指文字で表現

取材したのは、太田優人さん（新陽小5年）と池野瑚音さん（フホロの丘小4年）の2人です。「こんにちは」。

札幌聴覚障害者協会の理事長・渋谷雄幸さん（74）が手話で伝えると、通訳者が日本語に訳してくれました。

渋谷さんは幼いころに病気で高熱を出したことをきっかけに、耳が聞こえなくなり、その後、札幌聾学校などで手話を覚え、いくつもの仕事をを経て1997年から協会の理事長を務めているそうです。

⑤手話について取材をして、手話に挑戦する太田優人さん（左）と池野瑚音さん。2人とも「もっと上手になりたい」と熱心に習いました。



「チといった言葉はどうやって表現するんですか」と聞くと、渋谷さんは「その場合は指文字を使います」と答えました。指文字とは、日本語の五十音や数字、アルファベットを指の形で表現する方法です。渋谷さんは「最近では新しい言葉がどんどん生まれていて、手話も増えています」と話しました。



2人が挑戦「バッチリ！」

「社会の中で、どこに行っても手話を通じて分かり合えるような環境になればすごくいいなと思います。そのために多くの人に手話に興味を持ってもらいたい」と渋谷さん。多くのコンビエンス

札幌聴覚障害者協会・渋谷さん「1年やれば会話できる」



2人は手話に挑戦です。渋谷さんは右手をにぎりしめて、こぶしを右耳周辺に近づけた後、手を下げました。「これは何の手話かわかりますか」。2人が考えていると渋谷さんが「ねるときはまくらを頭に付けて、起きる時にはまくらから頭がはなれるのでし

よ。これで『おはよう』

「図1」です」と教えてくれました。

次は「ごはん(食べる)」

「図2」。2人が何度も練習すると渋谷さんは「2人ともバッチリ」と笑顔。その後も「こちそうさま」「行ってきます」「地下鉄」「スマートフォン」、自分の名前などの手話を学びました。

太田さんは「指を使って自分の名前を表現するのが難しかった。もつとまくだできるようにしたい」、池野さんは「最初は難しそうだなと思ってたけど、何回かやっていくうちに、ちよつとできるようになってきた。もつと練習したい」と笑顔を見せました。

渋谷さんは「2人とも、1週間に1日、5分でもいいので定期的な手話にふれると1年もたてば会話ができるようになりますよ。ぜひ続けてください」と呼びかけました。

「毎日少しでも手話にふれると会話ができるようになりますよ」とこども記者にそう伝える渋谷さん